



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 22

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 22. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1954, 22: 13-17

ISSUE DATE:

1954-07-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186857>

RIGHT:

### 録 事

今年の梅雨は例年よりも早くやってきて、5月と同様に、6月1月の半分は雨天であつたために、入場者の少ないのは例年とかわりない。今年の梅雨は比較的順調で、各地とも昨年のような水害の悲報を耳にしなかったが、最後の30日になって、近頃になく大雨が終日降りつづいて、実験所の雨量計は99.7ミリを示すに到つた。紀勢西線も水害のため不通箇所を生じ、早くも夏枯れが予想されて案じられる。

毎年梅雨時になると悩まされている、番所山谷間から博物館前広場に流れ込む雨水の処理や、番所山道の復旧の件につき、京都大学会計課管理係長石本淳一氏が、防災研究所の川勝安太郎氏と共に、わざわざ来白された。現場調査の結果、同氏の指示に従つて、番所山植物園は旧位置に海岸道を1956年4月までに復旧することを確約され、排水処理用の空地は博物館西側の松林内に振興會と共同して早急に構築することに決定した。

かくして中旬頃より、雨の合間をみて、広場道路の砂利盛りや排水池堀上げ工事が進められることとなった。

6月7日、白浜の観光会館で第6回日本温泉協会總會が開催され、午後参加者約500人の過半数が白浜遊覧の途次、水族館を見学した。總會及び水族館での同会員の一般批評を綜合するに、「白浜は風景と環境とに恵まれているため、それにまかせ切りにしている所がありはしないか。しかしこの水族館は他の温泉地では真似のできない施設である。」と感心されていたようである。

6月23日、京都大学滝川幸辰新学長の初巡視あり、午後5時すぎ学長、内藤事務局長等8名の一行は実験所を参観され、白浜に一泊の後、翌24日大島の熱帯植物試験地に向われた。

# 業 務 概 況

## ◎ 6月の入場者数

区 分	水族館 発売数		明光バ 発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	2646 <sup>人</sup>	18395 <sup>人</sup>	5221 <sup>人</sup>	39133 <sup>人</sup>	7867 <sup>人</sup>	57528 <sup>人</sup>
小 人	120	1423	23	527	143	1950
団 体	3359	20028			3359	20028
合 計	6125	39846	5244	39660	11369	79506
無料入場者					51	264

## ◎ 6月の収入

		(累 計)
観覧券売上金	214,425	1,485,643
雑 収 入	6,042	9,064
5月よりの繰越	326,961	
計	547,428	

## ◎ 6月の支出

### 一般経費

費 目 別	金 額	累 計	備 考
人件費	84,053	207,307	
光熱費	8,987	21,811	
消耗品費	6,329	10,856	
備品費	1,500	11,030	
修理費	350	18,963	
賃料費	13,415	42,635	
厚生費	2,125	5,085	
借入根拠費	—	—	
諸税公課	100	1,951	収入印税
雑 費	50	2,215	
通信運搬費	1,400	4,354	
研究費	3,000	9,000	布施氏研究補助6月分
旅 費	220	220	
合 計	121,529	335,427	

水族館改善費 ..... 支出皆無

### 実験所費

費目別	金額	累計	備考
印刷費	—	250.000.	
備品費	—	146.000.	
設備修理費	—	450.	
特別費	8,760.	8,760.	
合計	8,760.	505,210.	

### 博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	6,575.	14,385.	
消耗品費	—	170.	
修理費	—	370.	
備品費	—	3,165.	
合計	6,575.	18,090.	

### 積立金

費目別	金額	引当高	現在高	備考
バス・ATV資金	9,100.		105,500.	
賞子資金	9,100.		62,334.	
厚生資金	1,500.		6,802.	
災害時予備金	65.		632,411.50	現金400,000.
会議費積立金	—		20,865.	
積立基金	25,737.		247,600.	
合計	55,502.		1,075,562.50	

### 支出合計

(累計)

一般経費	121,529.	335,427.
水族館改善費	—	—
実験所費	8,760.	505,210.
博物館費	6,575.	18,090.
積立金	55,502.	359,707.
計	192,366.	1,218,434.
6月末現在高	355,062.	
支出累計	1,218,434.	

### ◎ 前年度との比較

	1953	1954	増減
入場者数	11380	11369	- 11
売上金	206,421	214,425	+ 8,004
支出金	472,717	183,606	- 289,111

## 水族館記事

- ◎ 水温の上昇と共に、アカアシガニも最後の2匹が2日と7日に相次いで死亡した。
- ◎ No.13の水槽に入れてあった人気者のマダコの中の1匹は、6月12日の夜、仲間同士争斗の結果、翌朝になって全部の足を仲間のジコに喰われて死亡しているのが発見された。残る2匹も14日の夜、自ら排水栓を抜き、水槽の水を全部空にして自滅してしまった。
- ◎ No.38の水槽を彩っていた種類の美しい熱帯魚類は、27日掛置の不注意により注水口をつまらせ、流水停滞のため全滅させた。心すべきことである。
- ◎ 梅雨時は毎年のことながら、海水稀釈の影響をうけて、6月中に約60匹ほどの魚を殺してしまった。おまけに漁もあまりないので、魚族の補充にも不自由しているが、夏になると、おいおい夏一た魚も入ることであろう。
- ◎ 初夏の声を聞くと共に、新来のアカミガメが6月17日仲間入りすることになり、20日には、そのうんだ卵が数個持ちこまれた。1匹残っているタイマイも頭を咬まれて弱っているので、今年中に何とか補充したいと考えているが、大きな亀との同居は、少くとも運動活潑な夏の間は避けないものだ。
- ◎ 残り少なくなったカフトグニの補充を依頼していたところ、6月9日笠岡よりこの組の夫妻が無事に到着した。初夏の頃は生殖期にあたるので、♀が後から♀を掴まえ、擬似交接行爲をやるので、観覧客を奇作がらせている。

## 博物館記事

- ◎ 6月6日夜来の雨で、玄關東側の天井の湿っていた一部分(30×30cm)が剥落した。
- ◎ せっかく設備した蛍光灯が低電圧の時ともらず困っていたがこの度トランスを取りつけることにより、随時点灯できるようになった。
- ◎ 前号で報告したジャノメアメラシの巨大標本を博物館に展示することにした。尚残る1匹も16日遂に死亡したが、飼養中餌をとらなかつたせいか、入荷当時の大きさの半分位に萎縮していたので、標本とはしなかつた。

## 資 料

### ◎ 6月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(々)	5	4	5
気 温 (C)	$\frac{19.4-22.8}{20.6}$	$\frac{19.8-23.0}{21.4}$	$\frac{21.5-24.8}{22.9}$
水 温 (C)	$\frac{19.8-21.7}{20.6}$	$\frac{20.4-21.8}{21.1}$	$\frac{21.1-23.2}{22.1}$
比 重	$\frac{21.0-24.5}{22.9}$	$\frac{20.0-24.3}{23.0}$	$\frac{20.8-23.3}{22.2}$

但し { 気温は南水槽室  
 { 水温 } は No. 24 水槽  
 { 比重 } 7:10 時に測定

## 来 訪 録

中村安昭氏(鹿児島縣庁會議員)、武定利氏(西郷島村長)——  
 —— 杵島に水族館設置計画に必要な資料蒐集並びに視察の  
 ため。(6.1)

宮川澄夫氏(玉野海洋博物館長代理)—— 水族館用のウミ  
 ガメ其他魚類購入のため。(6.28~30)

昭和29年7月3日発行 (No. 22)

編集兼  
 発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興會  
 和歌山縣 白浜町  
 瀬戸臨海実験所 内  
 (電話・白浜温泉 515)